



まちづくり委員会広報
千僧供町

シンボルマーク と 標 語

・ かよい合う 心でつなぐ まちづくり
・ いにしへの 千僧の村 皆のまち

編輯發行

523-0016

近江八幡市千僧供町

會議所内

まちづくり委員会

TEL(0748)37-1234

広報部担当

小川 博久

No. 004

千寿会の夏季総会の日、歸りに玄關に出て見ますと、OJさんが車椅子を奥さんに押してもらって帰るところでした。思わず歩けないのかとびくりしました。「毎日どれくらい歩いていますか」と声をかけたばかりだったからです。後刻、伝え聞いたところではお酒が入ると歩き難くなるようだと、の事でした。年をとるとどうしても出にくくなり勝ちですが、皆に会いたい、元氣にやっていると、皆に会いたいとの思いと、奥様に後押しされて出てこられたのかなと想像し、千寿会にはそんな力もあつたんだなあと感じました。まちづくり委員会が目標として、思っています。

昨年、実施しましたアンケートに書かれた意見を何度か読ませてもらいました。改めて町民の皆さんのパワーに感心致しております。八十余名の方々がそれぞれ何点かの意見を書かれていました。中には、どうかと思う意見もありましたが、大方は自分の経験や見たこと聞いたこと等を元に真面目に熱心に書かれており参考になりました。いろんな意見

「町民のいろんな意見を大事にし、これからまちづくりについての議論を進めよう」

自治会長 駒場友三郎

があり、合意を形成して実施していくためには、アンケートにもありました。自治会にも国会のような組織を作つて個々の問題についてよく話し合つていくことが必要なように思いました。二年位かけて現在出ているいろんな意見や問題について討議をし、一定の結論や方向付けが得られたらすばらしいと思つております。まちづくり委員会にはその役割も期待していますので頑張ってください。最後に、平素は自治会の運営に多大なご支援、ご協力をいただきまして誠に有難うございます。今後、宜しくお願い申し上げます。



私たちの町と KJ法

今日、多くの町で住民によるまちづくりの活動に取り組んでおられますが、その多くは景観などの整備事業が目的のハード事業です。我々千僧供町では、誰もが心豊かで楽しく生活できる町にしたいで、理想を少しでも実現できるように活動しています。

そこでKJ法を取り入れ、テーマを「若い人が住みやすい生活改善」と定め、現状の問題や課題を提起し、検証を重ねて



マークの意味

まちのシンボル供養塚古墳をベースに、中央に椿の花を配したこのマークは、『完璧な魅力と誇り、つつしみ深くて気取らない優美さ』の意味をもち、魅力ある町にとの思いを表現しています。

きました。また、ここから表された図解を基に、町内の中学生以上の方を対象にアンケート調査も実施させていただきました。集計結果はすでに報告させていただきました。いただいたとおりですが、皆さんからこの町に対する想いや熱意を強く感じさせられる意見をたくさんいただきました。そこで委員会では、特に関心の高かった中から、先ず「祭礼に關すること」と「生活改善に關すること」の二題について再度KJ法で研究と検証に取り組むことにしました。

今回は特に自治会の三役さんと氏子総代さんにも参加いただ



き進めています。が、これにはかなりの時間と労力を要すると思います。

最終の方針が打ち出せるまでしっかりと取り組み、自治会や総代さんに参考にしていただける資料となるよう、町内の皆さんからも気楽に意見や考えなどをいただきたいと願っています。

また、今後も様々な問題や課題の解決の手法にKJ法を取り入れ、少しずつでも住みよい町を目指し活動します。のでご協力をおねがいします。

**KJ法研究
発表会に参加して**

馬場 茂喜

去る六月十一・十二日の両日、東京目黒のKJ法本部で開催された「第二十九回KJ法研究発表会」に、千僧供町まちづくり委員会より二名が参加させていただきました。

このKJ法は、商標権・著作権など多くの知的所有権が登録されており、正しいKJ法の普及と推進のため会員制度をとっておられます。

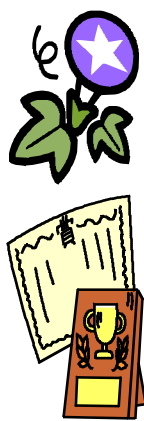
そこで当委員会では、法人会員の近江八幡市より紹介をいただき、昨年八月より市職員の深尾氏の指導のもと、「若い人が住みやすい生活改善」をテーマに問題の追求や研究を進めて参りました。この事を深尾氏よりK



J法本部に報告されたところ、川喜田先生には多いに興味と感心を示され、今回の要請となり参加させていただくことになりました。

今回の発表会には全国より十五組の発表者と、四十余名の参加者（いづれも過去最高）で開催されました。参加者の殆どが二十年以上の経験者で、中には三十年以上の方、何名かおられ、職業も大学の教授や講師、大学病院の看護師さん、若い人達も大学院の研究生で、KJ法そのものを考察されていたり、KJ法を学問や研究に活かしておられるなど、発表や意見交換のレベルに圧倒され少々の戸惑いも感じさせられました。

我々千僧供町まちづくり委員会の発表は二日目の昼食後の一番で（市の深尾氏が直前に発表）随分雰囲気にも慣れた頃で、昼食時間に祭りのビデオを放映したり、マップや広報とKJ法R2の資料を配布して参加者の気持ちをおちらに付けてもらって、まず私からKJ法をまちづくり委員会に取り入れた経緯を町の歴史や文化、環境などの紹介をおり混ぜながら説明しました。続いて広司さんがKJ法R2の現状把握ラウンドについて説明されました。しかし、三十分の限られた時間では充分な発表が出来ずに終わりました。が、先生から「近江八幡の二組の報告は、KJ法による効果が期待される楽しいもので、全国の市や町が明るく健全な町になるための良いサンプルになる。」と評価をいただき、皆さんからも、自治会の単位での参画型取り組み、創造性への挑戦と合意形成に向かう貴重な事例だなど、取り組みへの関心とともに、ラベルへの変換と図解にも非常に興味を示していただきました。このように二日間の間、経験の中でこれまで全く交流の無かった分野の方々と、夜遅くまで談笑し情報交換や交流を図れたことなど、とても満ち足りた気分です。日程を終え、握手を交わし帰途へつきました。



びわとと調査隊
千僧供河川

琵琶湖お魚ネットワーク

七月二十三日、琵琶湖博物館観察会「身近な環境の魚たちを調べよう」が、千僧供町付近の水路で行われました。



当日は天気にも恵まれ、馬淵学区だけでなく他所から参加されている方もおられました。集合してから五グループに分かれて、各グループに詳しい先生が生が付いて下さって、椿神社東側の田の水路へ向かいました。タモ網を川に立て入れ、人々が川の中で走って追い込むと、色々な魚が捕れました。最初は、水の中に入るのを嫌がっていた子供達も、魚を捕る事に夢中になってくると、ジャボジャボと水の中に入り、とても楽しそうでした。付き添いの大人達も同じ様に、川に入って魚捕りを楽しみました。

捕れた魚は、ドンコ・ボテ・ドジョウ・ザリガニなどで、稚

魚もたくさんいました。博物館の先生のお話では、ボテは生息している所も減っていて、田の水路で捕れるのも珍しい所で、「ここは、とても良い所です。ね。」とおっしゃっていました。改めて、自然の豊かな土地なのだという事を感じさせられました。



最後に、資料館の前で、博物館の先生方から魚の説明をお聞きして、観覧会は終わりました。

捕まえた魚は逃がしてやり、また機会があれば魚の調査をしてくださいと言われました。このような調査が、琵琶湖の保全にも役立つそうです。

子供達は少し疲れたみたいですが、大人も子供も有意義で楽しいひとときを過ごせたと思います。

(児玉記)



昔から嫁にやるなら千僧
供馬粥と言われた位この土
地は生活に不自由もなく暮
らしやすい村であつたが故
に近所付き合いも派手であ
つたのだと思います。今日
の生活に合つた暮らしが出
来るようなお一層の改革を
お願いします。(Kさん)

みなさんからの声



千僧供町の住民として

千僧供の祭りは先祖が土地（財産）を守るため千僧供、馬淵、岩倉で作った四分四つ二分の制度と深く絡み合った祭礼です。四分四分二分は三か村の水利権を現しているますが現在の様に土地改良によりバルブを捻れば水が出る時代になっててもその制度は残っており祭礼の基本に成っている。千僧供馬淵、岩倉（昔は上田も関係が有ったとされる）と深い関係が有り、千僧供の置かれていた立場は非常に重く、氏子の一人として責任を感じています。私は保守的だと言われますが、四分四分四分制度や村人制度は歴史で有り、遺産でも有ります。これからの時代に継承して行くには多くの問題が有ると思われませんが先人達が作り上げた歴史、遺産を継承出来る様、氏子の一人として頑張って行きたいと思ひます。（Oさん）

みなさんからの声

まちづくり委員会に
待ちづくり委員会で今ま
でに取り組みられた活動は、
千僧供町の地域活性化の為
に重要な一歩であると思
います。収集された住民の意
見から、今後進むべき千僧
供町の新しい姿を提案して
下さる事を期待します。

(Tさん)

私の要望

「千僧供町まちづくり委員
会」の活動が、苦勞様です。
代々伝わる慣習を改善し、
皆が住み良い町づくりを取
り組む事に、大いに賛同致
します。私は、千僧供町の諸行事地
区では、千僧供町の諸行事地
区とは別に、独自の活動をし
ておりましたが、特に祭礼にお
いては、決まり事に縛られな
る事はなく、住民の身近な
コミュニティ・シヨンの場と
して活用出来ていいると思
います。高齢化が進んでおり、千僧
供町の組長の選出、祭礼の
協力など、負担になってい
るのも事実です。この辺り
の諸事情を、ご理解の上、
改善頂きたいと思ひます。

(Kさん)

まちづくり委員の紹介

四月二十四日の第一回委員会で委
員の改選が行われました。新メンバ
ーも加わり更なる進展が願われます。
応援の程よろしく願ひします、

千僧供町まちづくり委員会名簿

平成十七年四月二十四日改正

会長(自治会長) 駒場 友三郎

委員長 馬場 茂喜(馬場) 広 報

副委員長

小川 敏秋(馬場) 看板

小川 公子(小千東) KJ法

小川 由一(堂街道) 広 報

小川 博久(北浦) 広 報

小川 廣司(北浦) KJ法

小川 智広(北浦) 看板

松本 繁(小千西) 看板

小菅 好美(六枚橋) 住宅案内板

小川 博司(馬場) KJ法

馬場 和美(馬場) マップ

久郷 勇(堂街道) 住宅案内板

小川 香代美(堂街道) 住宅案内板

小川 敏博(小川) マップ

小川 敏信(小川) 住宅案内板

小川 薫(小川) マップ

中島 英美(北浦) マップ

小川 早苗(北浦) KJ法

小川 春夫(小千東) 看板

小川 英司(小千東) 広 報

河村 記代美(小千西) マップ

藤居 剛(山ノ下) KJ法

岡村 律子(山ノ下) 住宅案内板

富永 美奈子(六枚橋) 住宅案内板

坂田 美奈子(六枚橋) 住宅案内板

水谷 利男(小川) 繁雄

小川 興志男(小川) 延司

相談役

以上

まちづくり委員会の
ちよこつとした活動

五月二十二日(日)の朝から
少しでもきれいな町・住みよい
町にとの思いから、町内美化へ
の取り組みとして「岩塚古墳」
と「トギスの塚古墳」の雑木の
伐採と除草を行いました。見え
た!見えた!古墳石と喜びの
をあげて記念撮影をしました。



「住宅案内板作成グループ」

町内をそれぞれ区切って制作
されています。その第一弾とし
て、六枚橋にきれいな住宅案内
板がもうすぐたてられます。ご
期待下さい。

トギスの塚清掃風景



岩塚古墳の清掃風景



編集後記

第四号を刊行しました。まち
づくり委員会の活動内容を少し
でも、お伝え出来たでしょう
か?。いろんなご意見をいた
さればうれしく思います。よろ
しくお願ひします。

「若い人が住みやすい町づくり」

追求始まる

五月にKJ法による追求委員の募集が行われ、その結果、追求テーマ二つのメンバーが決まり、現在隔週で真剣な論議が進められています。その各メンバーを紹介します。

テーマ「祭り」メンバー

小川 平夫 宮村 晃弘
水谷 明夫 藤居 剛
小川 早苗 松本 繁
小川 敏秋 小川 廣司
由一

テーマ「生活改善」メンバー

駒場 友三郎 小菅 好美
小川 公子 児玉 智弘
小川 薫 小川 香代美
馬場 茂喜 小川 博久
(助言者) 深尾 氏

お知らせ

九月四日(日)八朔の奉納相撲のあと、会議所で「町づくりに関するパネルディスカッション」を行います。皆さんの参加を是非ともお願いします。

千僧供探訪

④堀ノ内遺跡 住居跡について

堀ノ内遺跡の五角形

堀ノ内遺跡は、弥生時代から鎌倉時代にかけての複合遺跡である。ここで報告する住居跡は、昭和五十八年度の県営ほ場整備事業に伴う発掘調査で検出されたものである。調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけてを中心とした竪穴式住居跡、群、方形周溝墓、平安時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物、溝状遺構などを確認している。五角形住居跡は、堀ノ内遺跡のさらに東南部、岩塚古墳と穴式塚古墳(ともに横穴式石室墳)の中間あたりに、他の竪穴式住居跡数棟とともに検出された。住居跡は、東辺が他の住居跡と重複しているが、その全容を知ることはできない。前後平面は、一辺各五メートル、東西幅約七メートル、南北幅約八メートル、角形を呈している。床面積は、ほぼ三十九平方メートルである。残りの良い西側で約三十センチの深さの溝が、東側では壁溝を、次に縦穴内の構造であるが、まず、各辺に沿って幅二十(八

十センチ、深さ十(三十センチ、断面U字形の壁溝が巡っている。壁溝は北東隅で一部きれており、また南辺で著しく幅を広げ、南隅から東方向に竪穴外へと続いている。

住居跡のほぼ中央には、長さ一メートル、短径六十センチ、深さ二十センチの楕円形の土坑が穿たれており、理土に炭化物・焼土を含むことより、炉と考えらる。さらに東南隅よりや北に寄った所に貯蔵穴と見られる。長さ十三メートル、短径一メートル、深さ三十五センチを測る二段掘りの土坑がある。主柱穴は、平面形同様に五・五角形であったと思われる。盗難、他は各隅に对应する位置に穿たれている。柱穴径二十五(三十五センチ、柱間距離は、その他は約四メートル、三、一メートル、約二、八、三、一メートルである。床面は、全体にわたって堅く踏みしめられており、出入口等の痕跡を特定することはできない。また、特殊な構造も見られ、住居跡内から出土遺物は、ほとんどない。理土中にも、極めて少ない。土器は概ね、弥生時代後期から古式土器までを含む。ここからは、壁溝と東南辺の埋蔵穴とを器を一部取り上げることにする。

「参照文献」
滋賀文化財だより No.93

滋賀県 千僧供古墳群 岩塚古墳

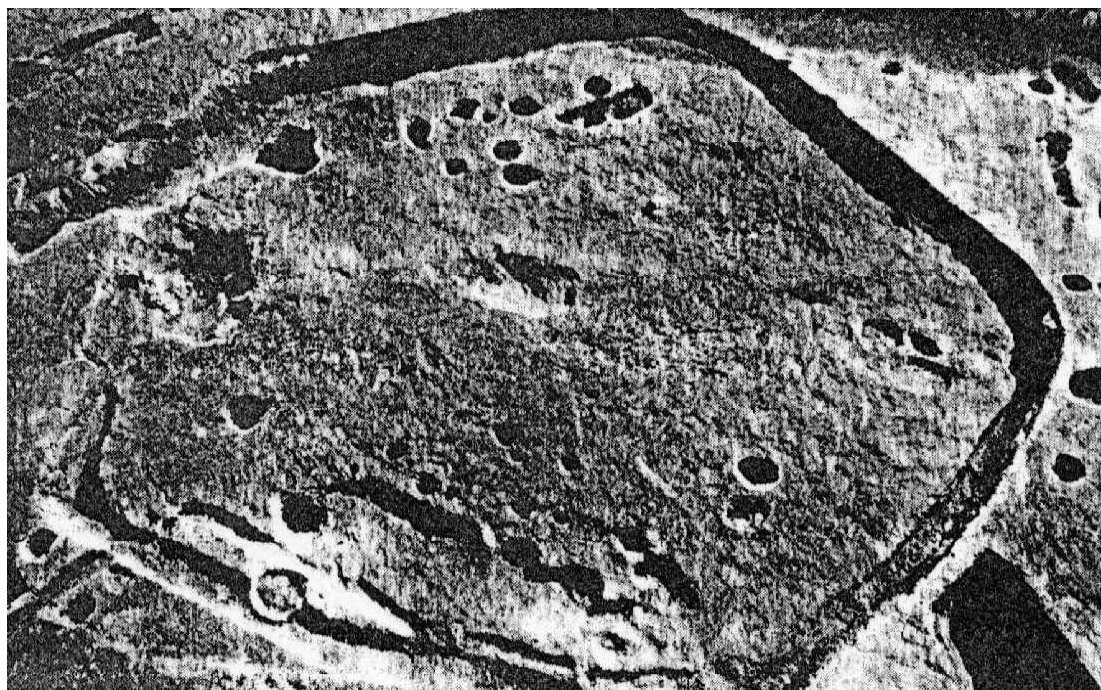
指定史跡 昭和五十九年三月三十日指定
岩塚古墳は、千僧供古墳群のうち最も南側に位置し、墳丘径約二十七・五メートルの円墳であることが確認されているが、明確な周濠は認められていない。
横穴式石室を内部主体に持ち、現在は墳丘土が露出し、石室の石材が完全に露出した状態にある。
石室は、玄室幅約二メートル、現存石室長さ約十一メートルであり、ほぼ真南に開口している。
古墳時代後期(六世紀代)に属し、北方の住居跡古墳、北西方の供養塚古墳に引き続いて築造されたものと見られ、在地の首長墓の系譜を引くものとして、貴重な古墳である。
平成二年三月 滋賀県教育委員会

滋賀県 千僧供古墳群 トギス塚古墳

指定史跡 昭和五十九年三月三十日指定
トギス塚古墳は、千僧供古墳群のうち、最も東南部に位置し、墳丘径約十四メートルの円墳であることが確認されているが、周濠は認められていない。
現在、墳丘の大部分は消失しているが、一部石材が露出していることから幅約一・五メートル、現存長さ約五メートルの横穴式石室を内部主体とするものと見られる。
古墳時代後期(六世紀後半代)に属するものと見られ、規模は次第に縮小しているが、住居跡古墳、供養塚古墳、岩塚古墳に引き続き築造された在地の首長墓の墳墓と考えられる。
平成二年三月 滋賀県教育委員会

堀ノ内遺跡 (堀ノ内遺跡の五角形住居跡)

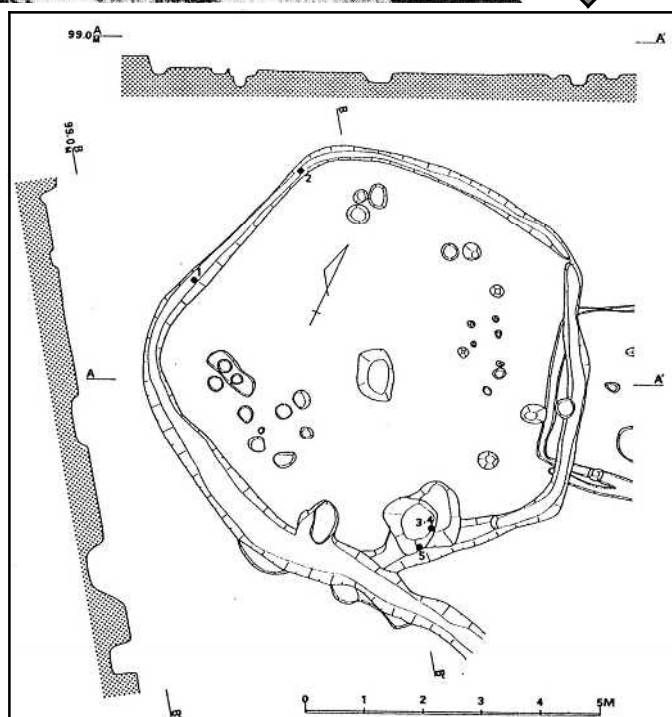
住居跡全景 (北から)



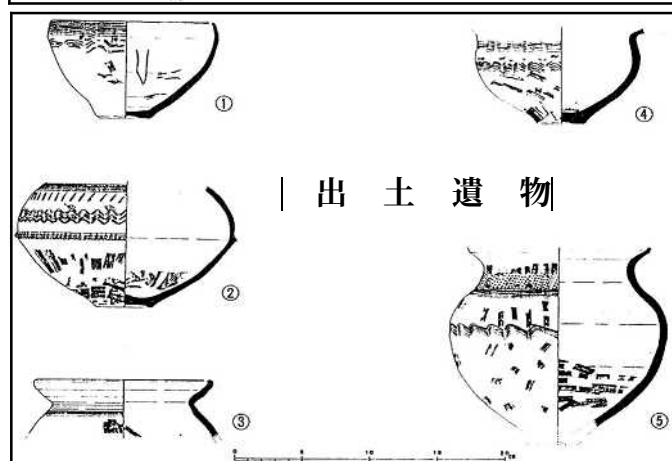
住居跡実測図
(番号は遺物の出土位置を示す)



トギス塚古墳全景



岩塚古墳全景



出土遺物